



# ひかり

No.10

平成29年1月31日  
千代田区立麹町小学校  
校長 山田 茂利  
URL <http://www.kojimachi-e.ed.jp/>

年の初めは暖かな日が続き、寒に入ると一転して例年通りの寒さとなりましたが、暦の上では、はや立春を迎える頃となりました。それでも、寒さはもう少し続き、太平洋側の降雪は例年これからが多くなり大雪に見舞われることもありますので注意が必要です。そこで、大雪等による子供たちの安全確保については、4月の学校便り「災害安全について」に基づき対応いたしますので、ご協力をお願いいたします。

さて、過日は保護者会、書き初め展にご来校賜りありがとうございました。ご覧いただきました多くの作品から、出来栄えとともに「あきらめないで努力する」気持ちを強く感じられたことと思います。作品づくりの過程では、失敗したり、思ったようにならなかつたりすることがあります。その時、「どうせ無理」だと思ふことのない「あきらめない心」もまた“豊かな心”を培うのだと思います。

また、このことは2月24日・25日に開催される展覧会の作品づくりにも同じことが言えます。子供たちは4月から自分の技や力を尽くし、思いをこめ作品をつくっています。展覧会は、図画工作や家庭科の知識や技能という学習はもとより、感性を働かせながら、作りだす喜びを味わい、豊かな情操を養うことも重要なねらいにしています。

展覧会で目指す「色や形、イメージを感じ表す」子供たちの力作を鑑賞いただくとともに、温かい励ましをお願いいたします。

そこで、今号では度々お話ししています、“未来への希望である子供たちを誉め、自分のよさやできるようになったことを実感できるように子供たちを育む”ということについて、少し違った視点からお話します。

それは、「叱る」ということについてです。「ほめる」ことは大切な教育の方法ですが、それは「叱り方」と対をなしているのではないのでしょうか。

「叱り方」と「ほめ方」、それは北風と太陽に似ていると思います。例えとしては少し違うかもしれませんが、厳しい（下手な）叱り方より、優しい（上手な）ほめ方のほうが効果があることは、北風と太陽を例にした物語にもありました。

それでは、いつもほめていれば……。しかし、やはり二つのことがうまく機能していないと教育は成り立たないのではないのでしょうか。上手なほめ方も、他方に叱るという行為があるからこそ生きてくるのです。つまり、ほめることと叱ることは、互いに補強し合う関係にあるわけです。

そのように捉えても（分かっている）、叱るということは難しいことです。叱る者の姿勢、叱る相手、状況などによって違いますが、例えば、「温かく、微笑みながら“叱る”」こともあり、「厳しく、仁王立ちになって“叱りつける”」こともあります。また、「涙を流しながら“叱る”」ということもあります。いずれにしても根底に、「愛すればこそ叱る」という気持ちがあれば、真の叱る言葉が出てくるのではないのでしょうか。

二宮尊徳さんは、「可愛くば、五つ数えて（教えて）三つほめ、二つ叱って良き人となせ」と言っています。意味は、子どもが可愛いならば、叱るにしてもほめるにしても、まず冷静になり五つ数える。そして、二つ叱るためには三つほめることを準備しておきなさいと言うことです。（「教えて」なら：「五つ教えたら、三つほめて叱るのは二つぐらいにしておきなさい。」と言うことです。）

いずれも心したいことです。

**2月の「なかよし月間・麴町思いやり月間」について** 1月始業式に次のことを話しました。

〔抜粋〕（前略）「より良く生きる」ということが難しいということ、2学期の終わりにも話しました。難しいから、努力することが、挑戦することがこれから皆さんの生きていく上での力になるのです。学習面はもちろんのことですが、心の力をつけることはもっと大変です。例えば、なかよく生活することを考えてみてください。友だちの考えと合わないことがある。いやなこともある。けんかもする。それが人間です。ですが、そのままで良いわけではありません。

それでは、どうする？ どうにかしなければならぬことを、どうにかする所が、みんなの生活する学校です。そして、そのことが、これから皆さんが大人になっていく時の力になるのです。

しかし、してはいけないことはあります。約束やルールを破ることもしてはいけません。また、人としてやってはいけない、悲しいことの中に“いじめ”があります。

例えば、嫌なことを言うこと。 いたづらをする事。 いじわるをする事。 です。

このことをされると誰だって嫌な気持ちになります。“いじめ”は絶対にしてはいけないことです。そのために「人としてより良く生きる」ための目標やめあてが大切なのです。（以下省略）

2月6日（月）の児童朝会で、1月を振り返りながら改めて「なかよし・思いやり」「いじめ問題」について話しをします。

**体力向上のための取り組みについて**

1・2月、本校では寒さに負けない心身の健康作り、体力の向上を目指して、体力向上月間として、縄跳びや持久走等に取り組んでいます。1月、子供たちの様子を見ますと、校庭に日がさしていなくとも、また風が冷たくても、休み時間等にボールゲーム・持久走・鬼ごっこ・縄跳び活動と元気よく校庭で遊んでいます。“豊かな心”“健やかな体（健康・体力）”はこのような遊びやスポーツなどを通して育まれるのだと思います。

そこで、本校の体力関係の実態と学校としての体力向上の取り組みについて、次にお知らせします。

**1 スポーツテストの結果：都の平均と本校の平均との比較（\*ゴシツクは学年の重点種目）**

**【男子】**

種目	1年/差	2年/差	3年/差	4年/差	5年/差	6年/差	重点
握力 (kg)	-1.37	<b>-0.89</b>	-0.83	-0.13	<b>-0.44</b>	-1.25	全体
上体起こし (回)	-0.77	0.55	1.25	-1.00	<b>-0.81</b>	-1.26	4~6年
20m シャトルラン (回)	3.30	-0.12	0.97	-5.33	5.57	-5.34	全体
立ち幅跳び (cm)	<b>-4.82</b>	1.60	<b>-9.74</b>	<b>-9.87</b>	8.75	-1.73	全体
ソフトボール投げ (m)	-0.59	1.42	-0.90	-0.42	4.30	<b>-2.79</b>	

**【女子】**

種目	1年/差	2年/差	3年/差	4年/差	5年/差	6年/差	重点
握力 (kg)	-1.83	-1.46	0.20	-1.06	<b>-1.45</b>	-1.85	全体
上体起こし (回)	-0.40	-1.45	0.64	0.71	<b>-1.40</b>	<b>-2.22</b>	4~6年
20m シャトルラン (回)	2.13	<b>-3.77</b>	-1.89	2.20	-0.69	-1.22	全体
立ち幅跳び (cm)	<b>-2.75</b>	5.19	<b>-3.71</b>	<b>-1.61</b>	1.69	2.11	全体
ソフトボール投げ (m)	-1.28	0.22	-0.85	-0.39	<b>-2.66</b>	-0.50	

## 2 学校全体としての体力向上のための取り組み（体育の時間）

(1) 体育の時間に次の「体づくり運動」を毎時間5分間取り組む。

- 1～4年生・力試しの運動（運動遊び）：人を押す、引く、運ぶ、支える、力比べ
  - ・体を移動する運動遊び：跳ぶ、はねるなどの動きで構成される運動遊び
- 5・6年生・力強い動きを高めるための運動：人や物の重さなどを用いた運動
  - ・体の柔らかさを高めるための運動：徒手での運動

(2) 体力向上月間に次の運動に取り組む。

- ①1～4年生：用具を跳ぶなどで構成される運動遊び（短なわ、長なわ）
  - 5・6年生：用具などを用いた運動：（短なわ、長なわ）
- ②1～4年生：体を移動する運動遊び：一定の速さでのかけ足
  - 5・6年生：動きを持続する能力を高める運動：持久走

## 3 各学年の体力向上のための取り組み

学年の課題となる種目についての取り組みを、項目2の学校全体の取り組みの中から選び、重点項目として計画的に実践する。

### 学年・学校の窓

#### エコキッズ探検隊

1年担任 齊藤 直、金子 希、井川 美幸

2年担任 寺田 美弥、岩田 真美、稲田 秀孝

1年生から5年生は、エネルギー・資源などの環境のことや、食育、日本文化などについて、ECOと関連させて様々な体験（学び）ができる「エコキッズ探検隊」の授業を計画しています。

1年生は1月16日（月）、日本の伝統工芸「墨流し」を体験しました。まず、用意いただいた3種類の絵の具を比べて、水に溶けたり、溶けなかったり、浮いたりする絵の具の特性を学習しました。そしてその後、水に浮く絵の具を使って「墨流し」を体験しました。子供たちは、「どうして色がまざらないのかな」「色を足すと、元の色が濃くなるのはどうしてかな」などと、絵の具の不思議に驚きながら、「墨流し」を楽しみました。

2年生は1月12日（木）・13日（金）、「エタノールで船を走らせよう」の体験学習を行いました。まず、船を走らせる前に、金魚すくい用のポイの上に水滴を垂らし、水が丸くなる様子を観察したり、水とエタノールに1円玉を浮かべる実験をしたりして、表面張力について学びました。次の船作りでは、自分で型を切り取って、色を塗ったり模様を描いたりして船を組み立てました。そして出来上がった船を水面に浮かべ、船の後ろにエタノールを垂らして船を走らせました。うまく進まない子供もいましたが、「船のお尻に当てるようにするといいよ」と声を掛け合って船を走らせていました。また、「船の先にエタノールを当てると船がクルクル回るよ」と新しい発見をした子供もいました。子供たちに感想を聞くと、「3年生で始まる理科が楽しみです」「実験が好きになりました」「3年生になるのが楽しみです」と、3年生になることへの期待を膨らませていました。



#### パラリンピアンと踊ろう

1月17日（火）、1年生と2年生は、リオデジャネイロ・パラリンピックの閉会式で踊った車いすダンサーの かんばらけんた さんをお招きして、オリンピック・パラリンピック教育の一環としての

学習を行いました。(かんばらさんは生まれつき足に障害があり、車いすで生活をしています。)

授業では、かんばらさんの日常生活の様子を伺ったり、実際に閉会式で踊ったダンスの一部を見せていただいたりしました。車いすのタイヤを使ってくるくると回りながら踊ったり、車いすの上で逆立ちをしたりする様子に、子供たちは大興奮。「どうやってやるの?」「こわくないの?」と質問したり、踊りのポーズをとってみたいしていました。

事前学習でパラリンピックの競技や、閉会式の様子をVTRで観たときには、「かわいそう」「ダンスを見たくない」と言っていた子供たちもいましたが、授業後に教室に戻ってくると「すごかった」「たのしそだった」「いいなあ! あんなふうに逆立ちしたい」と口々に言っていました。そんな子供たちの気持ちの変化がとても嬉しかったです。次に子供たちの感想を紹介します。

【1年生】「車いすの上でくるくるまわるのがすごくかっこよかったです。」「こんどはいっしょにあそびたいです。」「いっしょにおどってたのしかったです。さかだちしてすごいです。」

【2年生】「ぼくは、かんばらさんが、『さいしょはかいだんを手でのぼるのがはずかしかった。でも大人になったらそれがトレーニングになっていたことがわかり、いまダンスができるんだよ』って教えてくれたことがころにのこりました。」「かんばらさんがくるまでは、かわいそうっておもっていたけれど、かんばらさんを見たらぜんぜんかわいそうでなくて、むしろたのしそで、さかだちもようちえんからできてすごいです。わたしは今でもできません。」



## 展覧会について

学芸的行事委員会 海老名 文恵

本校では学芸的行事として、展覧会与学芸会を隔年で開催しています。本年度は、2月23日(木)から2月25日(土)まで、展覧会を行います。(2月23日(木)は児童・園児鑑賞日、2月24日(金)及び2月25日(土)の学校・園公開日が保護者鑑賞日です。)

今回は「色や形、イメージを感じ表す麴町の子『麴町アートフルランド』」と題し、体育館や3階ホールを夢いっぱいの空間にします。

子供たちは発想したことを、図画工作科や家庭科で学んだことを生かして表現しています。同じテーマをもとに、同じ材料を使って製作しても、一人一人の想いや希望・夢が込められた作品の表し方は様々で驚かされます。また、展覧会では、子供たちが思い思いに自己表現することに加え、友達作品を鑑賞して自分の作品との違いを感じ、そのよさをお互い認め合うことができることにも大きな意味があります。

保護者の皆様もぜひ、「麴町アートフルランド」で、麴町の子、一人一人の発想や表現の素晴らしさに触れていただければと思います。



## お知らせ「学校公開・展覧会について」

2月24日(金)・25日(土)は学校公開・展覧会です。学校公開の時間と展覧会の受付・鑑賞時間等については、別紙「2月の行事予定」の裏面に記載していますのでご確認ください。